

再生可能エネルギーのお話 ②

間伐することは山を守ること

先月は、再生可能エネルギーと太陽光発電の村内での取組み状況についてお知らせしました。今回はバイオマス発電についてお話しします。

バイオマス発電とは、生物（主に植物）の生体活動から生まれるエネルギーを活用し、直接燃焼したりガス化するなどして発電するものです。特徴としては、地球温暖化対策、未活用の廃棄物等の再利用や減少につながり、循環型の社会構築に役立つこと、家畜排せつ物や稲わら、林地残材など農山漁村に存在するバイオマス資源を活用することで農山漁村の活性化に寄与することができ、などがあげられます。

村には、バイオマス資源が多く存在しています。稲わらやもみ殻、特に、村の総面積の約88%を占める林野（約26000ha）から発生する未利用材が代表的です。

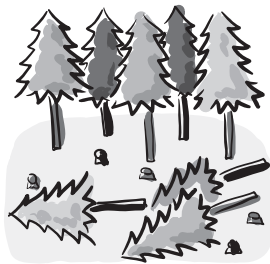
森林の役割は、木材を供給するだけでなく、国土保全や水源涵養、憩いの場の提供、

観光利用など多様な機能を併せ持つている村民生活に直結した貴重な資源です。しかしながら、担い手不足や林業従事者の高齢化が進み、十分に管理されない森林が増加傾向にあります。

今ある人工林は、戦後集中して植林されたスギが多いのですが、その多くが利用期を迎えているにもかかわらず利用されずに高齢林化しているのが現実です。そのような森林を活力のある森林にするためには、まずは保育・間伐を行うなど、適切な森林整備を行わなければなりません。適切な整備を行うことにより、光が地面まで届き、多様な植生が確保できるようになります。よく、「緑の山々を後世に引き継ぎたいので木は伐らないで欲しい」という意見を耳にします。しかし、森林を健全な状態に保つためには、年間成長量に見合った量を伐採し、その収益を山元に還元していくことが必要なのです。現在は、国の施策により、搬

出間伐に重点が置かれています。搬出間伐により山元に対して収益還元がしやすくなった一方で、間伐して搬出した材をいかに活用するかが課題となっています。

林野庁の資料では、全国で間伐され利用されていない木材が年間約2000万m³発生しているとされています。また、新潟県内においては、毎年約75000m³の木質バイオマスが供給可能であると言われていますので、これらの木質バイオマスを有効に活用することが林業の振興につながるものと考えています。



関川村デマンド交通実験運行がスタート!

9月1日から、通院や買い物などの日常生活を支援する新たな交通として「デマンド交通」の実験運行が九ヶ谷、七ヶ谷、女川地区で始まりました。

「デマンド交通」とは、予約型の乗合タクシーのことで、乗り合う方の自宅等を順番に迎えに行き、目的地まで送るサービスのことです。運行期間は平成28年2月29日までで、1人1乗車（片道）500円となっています。



このサービスを初めて利用した遠藤キイさん（大内渕）は、「平日は、いつでも頼めるので便利が良くてありがたい。時間が自分の都合に合わないので、待ち時間は長くなるけど利用料金は安いし、自宅前まで送ってくれるので助かる。これからも利用をしたい」と話してくれました。遠藤さんは、乗合タクシーなので、他の方と乗り合わせることも、話ができるので楽しいと話していました。

まだ利用者は少ないようですが、これからの利用状況を把握し、来年度以降の運行について検討がされていきます。

詳しくは、総務課企画財政班へ。



米寿のお祝い 村から記念品を贈呈

「敬老の日」を間近に控えた9月7日、平田大六村長と佐藤忠良副村長が今年米寿を迎えられた皆さんを訪問し、村長直筆の祝状と名前入りの絵皿を贈呈しました。

この日お祝いを受けた前田イチさん（金俣）は、「夫が亡くなり一人になりましたが、両隣が夫の姉妹で毎日のようにお茶のみをして楽しく過ごしています。娘も食事を届けてくれますし、みなさんに支えられています。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。

また、16日には平田村長が垂水の里で行われた敬老会に出席。今年100歳・米寿を迎えられた皆さんに「皆さんの元気なお顔が見れて嬉しく思います。なお一層お元気でこの村を見守ってほしい」と激励しました。

今年の米寿該当者は、昭和2年4月1日から昭和3年3月31日生まれの67人です。

青少年非行防止地域巡回 パトロールを実施！



青少年育成関川村民会議（伝信男会長：大島）では、関川小学校PTAと関川中学校PTAと共催で、9月12日下関大祭宵祭りに合わせ、青少年非行防止地域巡回パトロールを実施しました。

伝会長は「以前に下関大祭において、非行が行われたことがあり、青少年育成村民会議ではPTAと協力して、4年前からパトロールを実施している。子どもたちが遊んでいる姿をみる良い機会でもあるので、子どもたちへの声かけをしてもらいたい」と説明。

その後、それぞれの役員15人が3班に分かれ、村民会館・下関駅周辺及び大蔵神社周辺のパトロールを重点的に行いました。

勇壮に そして華やかに ～ 下関大祭 ～



伝統と歴史ある「下関大祭」が長雨の晴れ間となった9月12日と13日の2日間行われ、お神輿を先頭に勇壮な大輪や華やかな山車、樽みこしが下関集落内を練り歩きました。

祭礼は、実行委員会を中心に、青年団や消防団、子どもたちが早くから準備をすすめていたもの。小・中学生も「はやし手」や「太鼓たたき」「踊り手」として祭を盛り上げました。